

12.河内名所図会を訪ねて その六 道明寺

～梅園をさがせ～

毎年2月になると「梅まつり」でにぎわう道明寺天満宮の梅園。「河内名所図会」には、梅園が見当たりません。もちろん「梅」は描かれているのですが、あちこちに、少しずつ植えられており、これは前回紹介した「道明寺往古伽藍図」でも同様です。「河内名所図会」の道明寺・本社の図には、現在の梅園の位置に「とくほう院」という文字が読み取れます。

・得宝院

江戸時代に二度にわたる水害で大きな被害を受けた道明寺は、復興のため、京・大坂で霊宝の出開帳を行い、多くの人々からの援助を受け再建することができました。その一人が、三井八郎右衛門高方(三井家の創業者三井高利の孫)でした。八郎右衛門高方は、その後、道明寺の境内に先祖代々の回向供養として「得宝院」を建立し、寄進しました。これ以後、道明寺に対し三井家から経済的援助が続きました。明治の初めに行われた神仏分離令によって、引っ越しを余儀なくされた道明寺ですが、引っ越しには莫大な費用が必要になりました。そのため、もとの本堂を売り払いその費用に充て、「得宝院」を新しい道明寺の本堂としたといわれています。

・梅園

天満宮の梅園は、昭和40年代に入って整備されたもので、現在約80種類、800本の梅が植えられています。中には、歌舞伎俳優片岡仁左衛門さんが、道明寺ゆかりの「菅原伝授手習鑑」の公演の成功を祈願し献木されたものもあります。梅園にお越しの際には、ぜひ探してみてください。(2020/5 小田島)



道明寺本堂



片岡仁左衛門の梅(2019年11月撮影)

参考文献 藤井寺市史第3巻・第5巻
道明寺天満宮宝物選